



今回のメインテーマは
**子どもがかかりやすい
 感染症とワクチン**
 についてだよ！

赤ちゃんのワクチン、デビューは生後2か月 生後2か月からのスタートで、さまざまな感染症を予防しよう！

赤ちゃんは、お腹の中にいるときにお母さんからもらった免疫によって、多くの細菌やウイルスへの感染から守られています。しかし、生後5～6か月ごろを過ぎて免疫の効果が下がり始めると感染症にかかりやすくなります。赤ちゃんの予防接種は、お母さんからもらった免疫の効果が低くなって感染症にかかりやすくなる月齢や重症化しやすい月齢などに合わせて決められているので、生後2か月になったらすぐに予防接種を始めることが大切です。

0歳での定期接種が可能なワクチンのうち、BCGと日本脳炎以外は生後2か月からの接種が推奨されています(表)^{1,2)}。2023年4月から、4種混合(DPT-IPV)ワクチンも生後2か月からの接種開始に変更になりました¹⁾。従来の推奨スケジュールから1か月早く接種できることで、百日せきによる赤ちゃんの重症化予防が期待されます。表を参考に効率よく予防接種を受けることができるよう、接種できる月齢になったらできるだけ早く予防接種を受けましょう。

表 0歳の定期接種のワクチン(推奨スケジュール) ■ 定期接種の推奨期間 ■ 定期接種の接種可能な期間

ワクチン	予防できる感染症	出生直後	6週	2か月	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月	9～11か月	
Hib(ヒブ) <small>皮下</small>	Hib感染症*1			1	2	3	3回目終了後7か月以上あけて(標準的には1年後の1歳早期に)4回目を接種する					
小児用肺炎球菌 <small>皮下</small>	肺炎球菌感染症			1	2	3	3回目終了後60日以上あけて、かつ12か月以上(標準的には12か月以上15か月未満)に4回目を接種する					
B型肝炎*2 <small>皮下</small>	B型肝炎			1	2					3		
ロタウイルス <small>経口</small>	1価 5価 1価か5価のいずれかを選択	1価 5価		1	2	3	生後14週6日までに初回接種を完了し、2回目の接種は生後24週までに済ませる					
							生後14週6日までに初回接種を完了し、3回目の接種は生後32週までに済ませる					
4種混合(DPT-IPV) <small>皮下</small>	ジフテリア、百日せき、破傷風、ポリオ			1	2	3	3回目終了後6か月以上(標準的には12～18か月)あけて、4回目を接種する					
BCG <small>経皮スタンプ</small>	結核							1				
日本脳炎 <small>皮下</small>	日本脳炎	3歳時に6日以上の間隔をあけて2回接種、2回目から6か月以上あけて(標準的には1年後に)3回目、9歳以上13歳未満(標準的には9歳)で4回目を接種する						生後6か月から接種できますが、標準的には3歳からの接種となっています ³⁾				

参考資料1,2)より作成

*1 ヘモフィルスインフルエンザ菌b型(Hib)という細菌によって起こる感染症です。
 *2 母子感染予防のためのB型肝炎ワクチンは、お母さんがB型肝炎ウイルスに感染している場合に接種します。出生直後にB型肝炎免疫グロブリンと同時に接種し、さらに4週間後、また6か月後にそれぞれ1回ずつ接種します。この場合は健康保険が適用されます。
 *3 日本脳炎が流行している地域に渡航・滞在する、あるいは最近日本脳炎患者さんが発生した地域に居住するお子さんに対しては、生後6か月から接種を開始することが推奨されています。
 ※ 数字①～③は接種回数を表し、一例を示したものです。接種スケジュールの立て方については接種するお子さんの体調・生活環境、基礎疾患の有無などを考慮して、かかりつけ医あるいは自治体の担当者とよくご相談ください。

4種混合ワクチンは、以前より1か月早い、生後2か月から接種開始になったよ¹⁾

お役立ち情報

もうすぐ夏！蚊はウイルスなどを運ぶ「運び屋」かも

日本に生息する蚊のうち10種ほどが日本脳炎などの原因となるウイルスを運ぶと言われています³⁾。外で遊ぶことが増えてくると蚊に刺される機会も増えるため、免疫が低く感染症にかかりやすい子どもには対策が必要です。感染症の予防には以下の方法があります。

蚊に刺されない工夫

虫よけ剤を上手に活用しましょう。汗をかくと肌に残りにくくなるため、こまめな塗りなおしが必要です。

長袖・長ズボンを着用するなど、できるだけ肌の露出を減らすことが大切です。通気性がよく涼しい素材を選ぶようにしましょう。

屋外に放置されたお子さんのおもちゃなどに水がたまらないようにして、蚊の発生を防ぎましょう。

ワクチンでの感染症予防

ワクチンで予防できる感染症は予防接種を行うことが大切です。

日本脳炎の予防には、定期接種として4回のワクチン接種が推奨されているよ²⁾

Q 40代後半男性です。風しんの予防接種を受けたか覚えていないのですが、放っておいて大丈夫でしょうか？
A 放っておいてはいけません。抗体検査を受けましょう。
 44歳～61歳*の男性は、2025年3月31日までの間に限り(2023年6月時点)原則無料で受けることができます。

妊娠20週ごろまでの女性が風しんに感染すると、生まれてくる赤ちゃんに先天性風しん症候群(CRS)と呼ばれる難聴や白内障などの障害が生じる可能性があります。44歳～61歳*の男性は、過去に定期予防接種の対象とならなかったため、風しんにかかりやすく、家族や周囲の人に感染を広げてしまうおそれがあります。妊婦さんへの風しんの感染リスクをなくすためにも、もし、風しんの予防接種の記憶がない場合は、風しんに対する免疫の有無を確認するための抗体検査を受けることが大切です。

44歳～61歳*の男性以外にも、妊娠を希望する女性とそのパートナーや同居家族などを対象に、抗体検査の助成を行っている自治体もあるので、それぞれの制度について、まずはお住まいの市区町村に問い合わせてみましょう。風しんは抗体、いわゆる免疫を持っていれば感染を防ぐことができます。抗体検査の結果、免疫が十分になかった方は必ず予防接種を受けるようにしましょう。

CRS: Congenital Rubella Syndrome
 * 2023年4月2日時点の年齢です。

【参考資料】
 1) 「沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン(DTaP)を含む混合ワクチン等の接種スケジュールの前倒しについて」(厚生労働省) <https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001014099.pdf> (参照2023年4月)
 2) 「日本小児科学会が推奨する予防接種スケジュールの変更点2023年4月1日版」(日本小児科学会) https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/20230413_vaccine_schedule.pdf (参照2023年4月)
 3) 「ウエストナイル熱媒介蚊対策に関するガイドライン」(国立感染症研究所) <https://www.niid.go.jp/niid/images/ent/PDF/entwnf.pdf> (参照2023年4月)

ワクチンを接種することは感染症から人々や社会を守るというベネフィットがある一方、副反応のリスクもあります。わからないことは、お住まいの市区町村またはかかりつけ医に相談しましょう。

効率よく 予防接種を受けることができるよう、接種スケジュールは早めに計画しましょう。

監修：
 国立大学法人浜松医科大学
 小児科学講座 教授
 宮入 烈 先生



済んでいますか? 日本脳炎のワクチン接種



日本脳炎とは、どのような病気ですか？

日本脳炎ウイルスの感染によって起こる中枢神経(脳や脊髄など)の疾患で、東アジア・南アジアにかけて広く分布しています。ヒトからヒトへの感染はなく、ブタなどの動物の体内でウイルスが増殖した後、そのブタを刺したコガタアカイエカ(水田などに発生する蚊の一種)などがヒトを刺すことによって感染します。

厚生労働省ホームページ
日本脳炎ワクチン接種に関するQ&A
https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou21/dl/nouen_qa.pdf

日本脳炎ワクチンは完了するまでに4回接種します。

日本脳炎ワクチン 接種スケジュール

- 生後6ヵ月から90ヵ月未満の1期に計3回
- 9歳以上13歳未満の2期に1回



日本脳炎の予防接種をご希望の方は、かかりつけ医にご相談ください。